

アンゼルク キーファアの 両義的 イコノロジー 記憶、神話、女性像

Anselm Kiefers
Ambivalente Ikonologie:
Gedächtnis,
Mythos,
Frauenbild



オクタビオ・パスのために / Für Octavio Paz 2024, 380×950cm
©Anselm Kiefer. Photo: Nina Slavcheva

「獨協大学 国際共同研究助成費」採択企画

シンポジウム—「アンゼルク・キーファア：ソラリス」展によせて

2025年 11月15日[土] 13:00-16:30、11月16日[日] 13:00-16:00 開場は両日12:30

獨協大学 天野貞祐記念館大講堂／オンライン配信 併用

東武スカイツリーライン「獨協大学前(草加松原)」西口より徒歩5分

参加 無料 定員 人数制限なし オンライン配信 こちらのQRコードよりお申し込みください



お問い合わせ 獨協大学外国語学部 ドイツ語学科共同研究室

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1、Tel:048-946-1924 共催:獨協大学ドイツ語学科、ドイツ語圏美術史研究会

ドイツ出身の美術家アンゼルム・キーファー（1945年-）は、第二次世界大戦以後の歴史的記憶、神話、文学といった主題を重厚な物質感と巨大なスケール感の作品で表現してきました。戦後の危機的なポストモダンの文化的状況に、唯一無二の手法で大きな革新をもたらしたキーファーの存在は、19世紀から20世紀への転換期—モダニズムの黎明期に「芸術とは何か」という問いに独自の理念を提示し、ヨーロッパのみならず日本にも多大な影響を与えた「近代彫刻の父」、オーギュスト・ロダン（1840-1917年）とパラレルな現象として捉えることが可能です。

この度、京都・二条城にて日本で四半世紀ぶりとなる大規模個展「ソラリス」が開催されたのを機に、本シンポジウムでは、記憶、神話、そして女性像といったキーファーの主要主題を中心に、6名の研究者が日独両国の視座からその作品世界を多角的に読み解きます。

タイムスケジュール Programm 逐次通訳あり

1日目 11月15日

- 13:00 開会挨拶・趣旨説明
- 13:05 講演1 青山 愛香
二条城とライン川—キーファーの〈ソラリス展〉を巡って
- 13:40 講演2 香川 檀
はじめに侵犯ありき—キーファーの作品における〈徴候的イメージ〉
- 14:20 講演3 ユディット・ビー爾
記憶と神話の間で—
ドイツにおけるキーファー作品のメディアと博物館の受容について
- 15:25 講演4 ガービー・ヘルヒェルト
ライン川—聖地、神話、政治

2日目 11月16日

- 13:00 講演5 尾関 幸
不在という存在のかたち—アンゼルム・キーファーの女性像
- 13:35 講演6 アンヌ・マリー＝ボネ
アンゼルム・キーファーとオーギュスト・ロダン
- 15:00 総括・討論



ブトレマリス / Ptolemais 2002-10, 188×140×140cm
©Anselm Kiefer. Photo: Nina Slavcheva

登壇者紹介 Referentinnen

青山 愛香 Aika Aoyama

獨協大学 教授

専門はアルブレヒト・デューラー／北方ルネサンス美術。
主な業績に「遍歴時代のデューラー素描《玉座に座る老人と跪く青年》について」『ゲルマン民族博物館年鑑』（2005年）、『遍歴時代のデューラー作品』（中央公論美術出版 2009年）、訳書にハインリヒ・ヴェルフリン著『アルブレヒト・デューラーの芸術』（中央公論美術出版 2008年）ほか多数。

香川 檀 Mayumi Kagawa

武蔵大学 名誉教授

専門は表象文化論、ドイツを中心とした近現代美術。著書に『想起のかたち—記憶アートの歴史意識』（水声社 2012年）、『ハンナ・ヘーヒー 透視のイメージ遊戯』（水声社 2019年）ほか多数。

ユディット・ビー爾 Judith Bihr

ダルムシュタット大学 教授

専門はモダンアートと現代美術、グローバル・アート・ヒストリー、メディアアート。ダルムシュタット応用科学大学で実験的メディア文化および教育を担当。ビーベラハ博物館、カールスルーエの芸術とメディアセンター ZKMにてキュレーターを務める。

ガービー・ヘルヒェルト Gaby Herchert

デュースブルク＝エッセン大学 名誉教授

専門は中世文学・語学。研究の関心領域は、中世の教育、中世および近世の写本、中世イスラム教およびキリスト教支配圏間の文化的移動、中世における法と正義。

尾関 幸 Miyuki Ozeki

東京学芸大学 教授

専門はドイツ近代美術史。共著に『西洋美術史』（美術出版社 2021）、論文に「ディレクタントの芸術としての「ランドスケープ・ガーデニング・ピュックラ＝ムスカウと『親和力』の世界」（『ドイツ近代におけるディレクタンティズム』三元社 2019年）ほか多数。

アンヌ・マリー＝ボネ Anne-Marie Bonnet

ボン大学 名誉教授

専門はドイツ・ルネサンス美術。教育・研究の関心領域は、近代の彫刻／塑像、近代および「アヴァンギャルド」の思想史、美術史学の思想的背景、ミュージオロジー（博物館学）、芸術というシステム、脱植民地化など。教授資格論文は「デューラーおよびドイツ・ルネサンスにおける裸体表現」。ライプツィヒ、フライブルクの大学で教授職、ボン大学で正教授を歴任。キュレーター、専門アドバイザー、批評家としても活動。